

薬剤部 DI ニュース

今月は、最近の関節リウマチ薬について、簡単に紹介してみたいと思います。

1. リウマチとは？

リウマチとは体内の免疫に異常が起こることによっておこる自己免疫疾患です。現在、痛みや炎症を抑えるのにさまざまな薬剤が使用されています。

特に、関節リウマチの薬には、炎症による痛みや腫れを抑える非ステロイド系消炎鎮痛剤（NSAIDs）、速やかに炎症を抑える副腎皮質ホルモン（ステロイド薬）、免疫の異常にはたらきかけ病状の進行を抑える抗リウマチ薬（DMARDs、メトトレキサート製剤も含む）などがあります。最近では、抗リウマチ薬を最初から使用し、それに非ステロイド系消炎鎮痛剤、副腎皮質ホルモン、さらに炎症を引き起こす物質の働きを直接抑える、「生物学的製剤」が積極的に使われ始めました。関節リウマチの治療薬には、使用順番、投与時期、薬剤の組み合わせ、費用面などいろいろな条件があるため、主治医の先生とよく相談することが必要です。

2. 生物学的製剤

生体内ではサイトカインと呼ばれる物質が合成されています。

この物質には、さまざまな種類が存在し、リウマチに関与する免疫反応、炎症や、その他にも生体防御、アレルギー、発生・分化（形態形成）、造血機構などの生態反応に関わっています。

最近登場してきた生物学的製剤は、このサイトカインの働きを抑え、症状を改善するところに注目し開発された薬剤です。TNF- α またはIL-6を阻害する2種類が開発されています。

現在、日本においては以下の4種類の薬剤で、注射剤のみが認可されています。

一般名 (商品名)	TNF- α 阻害薬			IL-6阻害薬
	アダリムマブ (ヒュミラ®)	インフリキシマブ (レミケード®)	エタネルセプト (エンブレル®)	トシリズマブ (アクテムラ®)
投与経路	皮下注	点滴静注	皮下注	点滴静注
投与間隔	2週に1回	0・2・6週 その後8週ごと (最短4週間)	週2回	4週に1回
MTX併用	併用時の方が 有効性が高い	必ず併用	併用時の方が 有効性が高い	併用可
在宅自己注射	認可		認可	
承認年	2008年	2003年	2005年	2008年

3. 点滴注射

アクテムラ®は約1ヶ月に1回約1～2時間程度、また、レミケード®は最初の3回は投与量を多く設定する、負荷量投与後約2ヶ月に1回、2時間以上かけて、外来診療時に点滴をするものです。1回の点滴で長期間効果が持続します。自宅で行うことはできません。なお本院では、レミケード®での治療が予定されています。

4. 皮下注射

エンブレル®は1週間に2回、また、ヒュミラ®は2週間に1回皮下注射をするものです。患者が、皮下注射の技術を習得できれば、インスリン注射のように自宅での自己注射が可能な薬剤です。薬剤の溶解など煩わしい準備が必要ですが、最近はより使いやすいように改良されてきています。

点滴注射、皮下注射ともに、利点・欠点があります。薬剤の特性、患者さんの環境・状態に応じて、どの薬剤にするのかは主治医と相談して決めることになります。

5. これらの薬剤には比較的似たような副作用があります。

風邪様症状、かゆみ、発疹、疲労感、頭痛、めまいなどです。また、皮下注射では注射したところが腫れる、点滴注射ではアナフィラキシー様症状など急激なアレルギー反応が出ることがあります。

その他、細菌などに対する抵抗力が弱まることもあり、敗血症や肺炎などにかかりやすくなったり、現在かかっている感染症が悪化することもあります。このため、患者には前もって、少しでも異変を感じたら医師や薬剤師に連絡または受診するように伝えておくことが重要です。